

寒かった季節がゆっくりとやわらぎ、少しずつ空気があたたかくなってきましたね。3月は別れや旅立ちの季節。あわただしさの中でも、あたたかな日差しの下で本を開き、ほっと一息つく時間を楽しめるといいですね。

「読み聞かせ」から生まれるたくさんのこと



前回の「よむよむ通信」では「ブックスタート」という活動を紹介し、乳児期から本に親しむことの大切さについて触れましたが、その中でも大人が子どもに「読み聞かせ」をする時間をとることは、特別なひとときです。本を通して同じ物語を楽しむ経験は、たくさんの効果があります。

読み聞かせをすることで、子どもはたくさんの新しいことばや表現に出会います。また、大人が感情をこめて読むことで、子どもの表現力や相手の気持ちを想像する力も育まれます。また、「この子はどのように泣いているのかな」「どんな気持ちかな」といったことや「このあとどうなるんだろう？」を話し合うことは、子どもとの絆が深まるきっかけにもなります。

スマホやタブレットが身近になっている今だからこそ、ときには紙の本を自分たちのペースで1ページずつめくり、ゆっくりと楽しむことの価値が高まっています。教育委員会では、今後小学校1年生から中学校3年生までの読書の記録を一人ひとりの宝物にしたいと考えています。

読書活動推進 取組紹介！



今年度も多くの学校が工夫しながら読書活動の推進に取り組みました。今回は2つの学校を紹介します。

今年度から朝読書の時間を始めた鶴巻中学校。「よむよむweek」として、月に1週間、集中的に朝読書に取り組んでいます。ただ取り組むだけでなく、月ごとに各教科と関連した本の紹介をし、さまざまなジャンルに触れることができるよう工夫されていました！



南中学校は、学校図書館にたくさんの工夫がありました。季節にあった本が手に取りやすく並べられ、新聞も読みやすい位置に。みんなが集まって読める場所のほか、一人で静かに集中して読みやすいスペースなど、いろいろな読み方に合わせた環境が作られています。



「読書検定グローバル大会」に 小中全22校参加!!



前回の「よむよむ通信」では、夏のOMOTAN読書レター読書検定「秦野市大会」の受賞者を紹介しました。令和7年度より、「はだのっ子アワード」読書活動部門の表彰対象となり、12月の表彰式で表彰したところです。

これに続き、神奈川新聞社が主催する「読書検定グローバル大会」の開催について市内の各学校にお知らせしたところ、市内小中学校すべての学校から応募がありました。3月31日まで投票期間となっています。本市から受賞者が選ばれるといいですね！

読書検定グローバル大会の
詳細はこちらから!!

